

■十一月十五日放送

京・武衛陣（ぶえいじん）の変遷

福井商工会議所
商工相談所長 奥 山 秀 範

京都御所の西、室町通り沿いに現在も武衛陣町という町名が残っている。

室町期に越前守護であった斯波氏の館があったところであり、現在は平安女学校が建っており、敷地の一角に「此の付近斯波武衛陣」の石碑が建っている。

その斯波氏は室町期、「二門第一の家格」、三管領筆頭として、兵衛府の唐名をとって「武衛」と呼ばれていたことは周知の事実だが、義将時代に室町通り勘解由小路に邸宅を構えたため、この地（邸）を武衛陣と呼称するようになった。

武衛陣は義敏と義廉の斯波氏の家督争いも一因となった応仁の乱で、東西両軍の激しい綱引きの舞台となったところでもある。乱も終わりがち朝倉氏に続いて越前守護代を



務めていた甲斐氏も東軍（義敏側）に帰順すると、孤立した義廉（西軍）は武衛陣を放棄し、尾張に下向しやがてその消息は歴史から消えていった。入れ替わるように義敏が越前を追われ

京に戻って武衛邸を接収再建し、その子義寛（尾張・遠江守護）の時代までは京と尾張を行き来し何とか武衛の名跡を保っていたと考えられるが、今川氏の遠江侵攻が本格化すると、尾張に下向したまま武衛の活動は京から消える。それとともに武衛邸の荒廃がすんだと考えられる。

戦国時代に入って、將軍義輝は近江から帰洛し、ここに新御所を建設し幕府再建に取り組んだが、志半ばで松永久秀に襲撃され、この地で最後を遂げた。

織田信長は主筋の尾張守護斯波氏（末裔の斯波義銀）を追放し、最後の足利將軍義昭の二条御所をこの地に建立し全国平定に乗り出したが、本能寺の変で挫折、嫡男信忠もこの時、二条御所にこもり明智軍と戦い敗死した。

織田氏にとってなんとも因果な結末であったといえる。

武衛陣は室町から戦国の時代、何度も歴史の目撃者となったのである。

講師略歴：奥山 秀範（おくやま・ひでのり）

昭和二十七年一月丹生郡越前町生まれ。昭和四十九年立命館大学産業社会学部卒業、昭和四十九年福井商工会議所入所、商工相談所にて中小企業の経営相談、情報化支援に従事。金融課長、総務課長、総合企画室次長を経て本年四月より現職。